

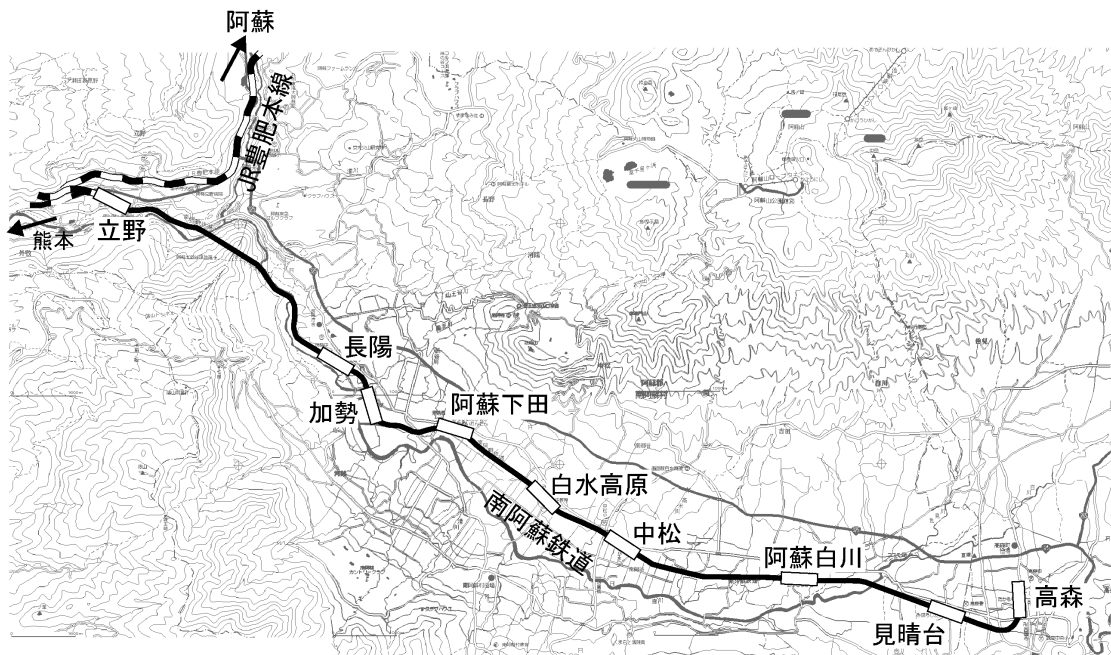
III 南阿蘇鉄道の現状把握

- 立野～高森駅間（17.7km）を結ぶ非電化・単線の路線である。沿線には立野～長陽間の立野橋梁や第一白川橋梁、温泉が併設された阿蘇下田城ふれあい温泉駅などの観光資源を有しており、普通列車のほかに冬季を除く週末を中心にトロッコ列車「ゆうすげ号」が運行されるなど、観光路線としての役割も担っている。
- 輸送人員は減少傾向にあり、輸送密度は 500 人/日を下回っている。また、定期利用者は通学利用がほとんどを占める。
- 毎年度計上している 5 百万円～11 百万円程度の営業損失に対しては、基金にて対応しており、また、今後の車両更新や施設更新計画を考慮すると厳しい経営状況と言える。

1. 事業者の概要

(1) 路線

- ・ 昭和 3 年 2 月に国鉄宮地線（豊肥本線の前身）の支線（同年 12 月に国鉄高森線に変更。）として、立野～高森間が開通して以来、78 年余りの歴史を持つ路線である。
- ・ 旧国鉄の第 1 次特定地方交通線として廃止決定された後に第三セクター転換された路線であり、現在の南阿蘇鉄道は昭和 61 年 4 月に開業した。
- ・ 立野～高森間（17.7km）を結ぶ非電化・単線の路線であり、全 9 駅（立野駅を含む。）が設置されている。また、列車のすれ違いが可能な駅は中松駅のみである。
- ・ 他路線とは、立野駅で JR 豊肥本線に接続している。



※ 阿蘇下田：阿蘇下田城ふれあい温泉

※ 白水高原：南阿蘇水の生まれる里白水高原

(2) 保有車両

- ・ 保有車両はすべて内燃気動車（ディーゼルカー）であり、一般旅客輸送用に 2 形式 5 両が在籍する。
- ・ すべて両運転台のワンマン仕様である。また各車両の定員は 99～115 名、うち座席定員は 53～56 名である。
- ・ MT2000A は南阿蘇鉄道発足当初から在籍する車両であり、機器更新が行われている。さらに平成 28～30 年度に車両更新が予定されている。
- ・ ほかに観光用のトロッコ列車として、ディーゼル機関車及び無蓋貨車改造の客車が各 2 両在籍しているが、平成 18 年度末に更新又は補修リニューアル予定である。

表 在籍車両の状況

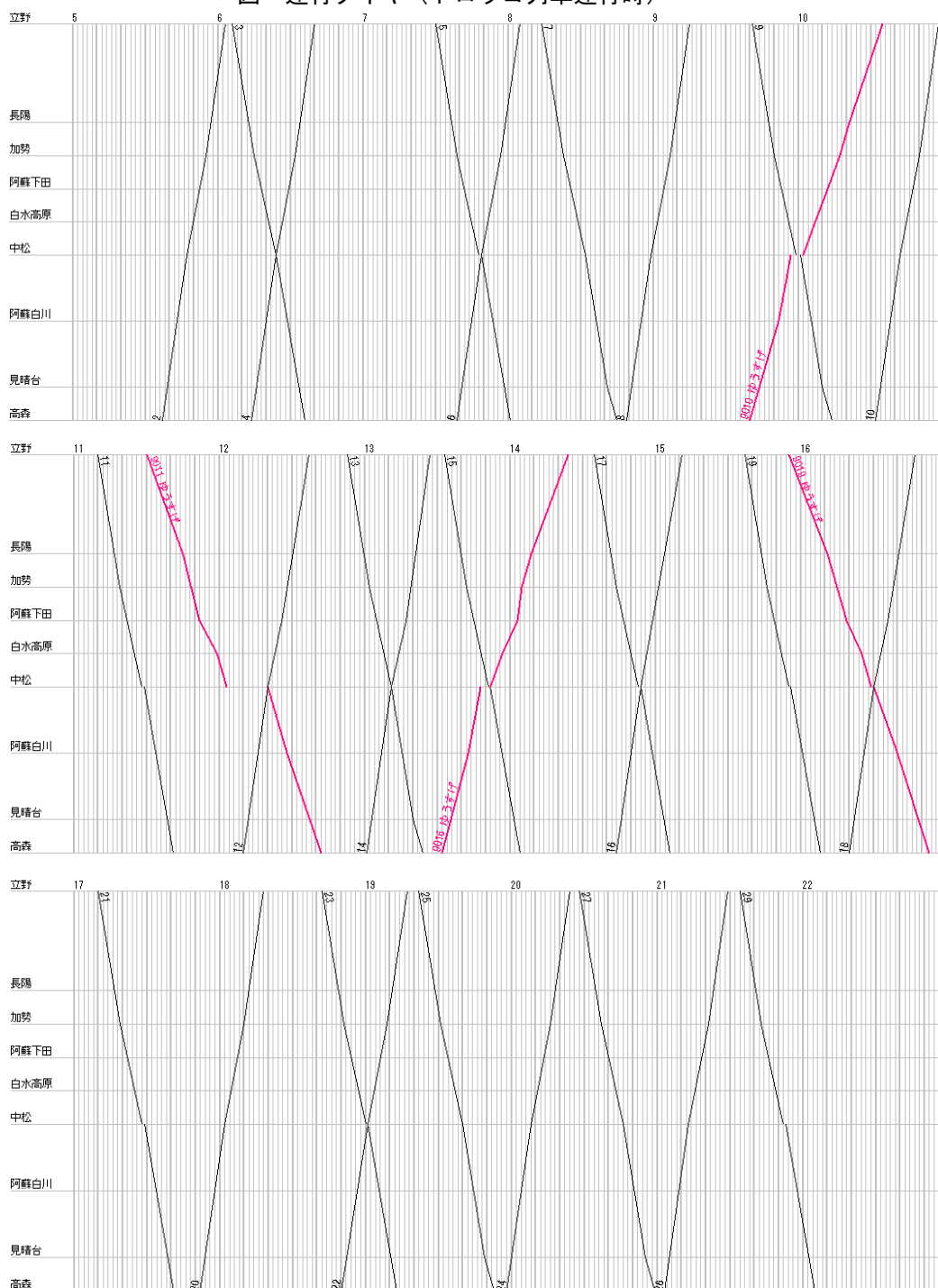
車両形式				
	MT2000A	MT3000	DB10（機関車）	トラ 700（客車）
納車年月日	昭和 60 年 1 月	平成 5 年 12 月 平成 10 年 3 月	昭和 61 年 7 月	昭和 61 年 7 月
保有車両数	3 両	2 両	2 両	2 両
車両更新予定	平成 28～30 年度	—	平成 18 年度 （更新）	平成 18 年度 （補修リニューアル）
定員（うち座席）	115(53)	99(55)/105(56)	—	—

（資料：南阿蘇鉄道）

(3) 運行状況

- ・ 1日あたり定期旅客列車が14往復（トロッコ列車運転日は上り1本運休）運行されている。（ただし、土・休日、学校休校日は1往復運休。）
- ・ また、3～11月の土休日を中心に観光用のトロッコ列車「ゆうすげ号」が2往復運転される。
- ・ 午後・夜間時間帯はおよそ1時間おき、その他の時間帯は1時間半おきに運転されており、トロッコ列車を含めると、線路容量の面では比較的高密度の運行がなされている。

図 運行ダイヤ（トロッコ列車運行時）



- ・ 列車キロは年間 180～194 千列車キロ、車両キロは 218～231 千車両キロで推移しており、大きな変動は見られない。
- ・ トロッコ列車の車両キロが平成 15 年度から 17 年度にかけて 17%増加しており、利用が好調である様子が窺える。

表 列車キロ、車両キロの推移

(単位:キロ)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
列車キロ	194,046	180,115	181,870
車両キロ	231,491	217,756	223,909
うちトロッコ	34,128	36,716	39,888

(資料:南阿蘇鉄道)